**【公募方法の説明】**

**Ｃコース（総量配分方式）、Ｄ、Ｅコース（コンベンショナル方式）の３種類あり、購入者がどのコースで購入するか選択できます。（複数コース選択可）**

***総量配分方式（口数型）とは？***・・・購入申込者は、口数を示して応札。申込総口数に応じて、落札者にその申込口数に応じた数量（端数調整あり）のクレジットが譲渡される。

例）Ａ社「3口330,000円」、「Ｂ社3口330,000円」、「Ｃ社1口110,000円」

を購入した場合

→3社で計7口であるため、1口当たりのCO₂は・・・30.7 t-CO₂／7≒4.4 t-CO₂

となります。（申込数が多くなるほど、１口当たりのt-CO₂は少なくなります。）

***コンベンショナル方式とは？***・・・・購入申込者は、購入申込総額と購入申込数量を示して応札。申込平均単価（複数単価入札方）（＝購入申込総額÷購入申込数量）が高い順に落札者を決定。

例）Ａ社「3.3ｔを330,000円」、Ｂ社「3.3ｔを660,000円」、Ｃ社「1.1ｔを330,000円」で購入した場合

→それぞれの0.1 t-CO₂あたりの単価は、Ａ社10,000円、Ｂ社20,000円、Ｃ社30,000円となります。申込平均単価が高い順に落札するため、Ｃ社、Ｂ社、Ａ社の順に購入することができます。（公募の数量がなくなった時点で、終了となるため、単価が低いと購入できない可能性もあります。）

【「特記事項※」の証書記載とは】

【Ｃコース：30.7 t-CO₂】【Ｄコース：50.0 t-CO₂】の証書には、例えば、以下の文例のような記載が特記事項として追記され、「アマモ場などの干潟・藻場の生態系が持つ多様な価値」について、購入者による資金的貢献が定量的な表現で記載されることになります。

**本プロジェクトの1年間の実施による造成干潟においての食料供給（干潟によるアサリの生産量が年間10トン増加、藻場によるメバルの生産量が年間7トン増加）と水質浄化（干潟・藻場の生物によるCOD浄化量が年間74トン増加）の経済価値を市場価格法と代替法によりそれぞれ推計したところ、 年間1.4億円程度の価値があると評価されました。**

**本証書記載のクレジットの購入者は、その購入したクレジットの数量に応じ、その経済価値のうち \* . \* % について貢献したものと評価されます。**

（「 \* . \* %」は、認証発行クレジット量の全体 130.7 [t-CO2]に占める購入クレジット量の割合となります。）